

カイロや寝袋無料配布



仙台の震災ホームレス支援のため、カップめんやカイロを積み込むAMDA職員ら＝岡山市北区伊福町

初便 仙台へ出発

国際医療ボランティアAMDA（本部・岡山市北区伊福町）は、東日本大震災の被災地で深刻化する「震災ホームレス」の支援活動として、カイロや寝袋の無料配布を始める。物資を積んだ初便が24日、仙台市に向け出発。暖かくなる4月中旬まで続ける。

AMDAによると、30人が、段ボールを震災ホームレスの問題に、JR仙台駅周辺では津敷くなどして寝泊まり。厳寒の中、健康状態も危惧されている。AMDAは1月中旬、日蓮宗の住職から

た。

この日、AMDA本部で初便の出発式があり、関係者が「被災地の状況は刻一刻と変わっており、現地のニーズに合った支援が必要」と訴えた。その後、4トトラックに、生活協同組合おかやまコープ（岡山市北区奉還町）から格安で仕入れたカップめん2千食、カイロ2千個のほか、県内の日蓮宗僧侶らが提供した寝袋を300積み込んだ。

物資は28日、AMDA職員が同NPOと一緒に現地のホームレスに配り、4月中旬までにカップめん8千食を追加で送る。炊き出し回数に限られていることから、要望に合わせ

て保存食の種類を増やすことも検討しているという。

AMDAの成沢貴子

事務局長は「震災から10カ月たっても、被災地を忘れていないと伝えたい。支援物資を有効に使用して、厳しい冬を乗り越えてほしい」と願っている。

（大江恵里奈）